

7 災害発生後、児童生徒にできること ～災害発生時のボランティア活動例～

○前提条件：児童生徒自身の安全が確保されており、活動に従事できる状態であること。

学 年	避難所	自宅及び周辺	公共施設	児童生徒にできるボランティア活動例
小学生	低学年	○		○ ボランティアの人たちに、元気にあいさつをする。
		○		○ 避難所の掃除や整理整頓を手伝う。
		○	○	○ 自分より小さい子どもたちと遊ぶ。
		○		○ 食事の容器を運んだり、片付けたりする。
	中学年		○	○ 徒歩で帰宅する避難者に、水や食料を補給する大人の手伝いをする。
		○		○ 給水車の到着や救援物資の配給が始まることを知らせて回る。
		○		○ 避難所の掃除や整理整頓を手伝う。
		○	○	○ 自分より小さい子どもたちの世話をする。
		○		○ 災害救援物資の搬入を手伝う(運べる重さのものを運ぶ)。
		○		○ 避難所のゴミの分別や、簡易シャワー室の掃除などを手伝う。
	高学年		○	○ 自宅周辺の道路や通路の瓦礫等を片付ける大人の手伝いをする(簡単な清掃程度)。
			○	○ 徒歩で帰宅する避難者に、水や食料を補給する大人の手伝いをする。
		○		○ 避難所の様々な役割分担に積極的に加わる。
		○	○	○ 中学生や高校生とともに、自分より小さい子の世話をしたり、高齢の避難者の手伝いをする。
		○		○ 避難所のゴミの分別や、簡易シャワー室の掃除などを手伝う。
		○		○ 炊き出しの手伝いをする。
	中学生			○ 布団や毛布などを干したり、取り込んだりする。
				○ ペットの散歩を代行する。
		○	○ 近所の高齢者宅でできることを手伝う(洗濯、掃除、避難所との連絡)。	
○			○ 避難所のトイレ掃除等、避難所生活を維持するための活動を行う。	
○			○ 水や食料等や、救援物資の配給を手伝う。	
○			○ 避難所の高齢者の健康状態を確認するために、声をかけて回る。	
○		○	○ 高齢者や妊婦、障害者等、弱者に対して声をかけ、頼まれたことをする。	
高校生	○		○ 小学生や中学生を集め、絵本や本の読み聞かせをする。	
	○		○ 乳児を抱えて避難してきた親の介助をし、乳児の子守をする。	
	○		○ 米飯炊き出しを担当する。	
	○	○	○ 避難所や公共施設における情報(救援物資配給、給水車到着予定、被害状況等)を近所の高齢者や障害者宅に届ける。	
	○		○ けがをしたり、体調を崩したりした人たちの介助をする。	
	○		○ 避難生活を維持するための様々な役割や仕事に対して、積極的に参画する。	
	○		○ 避難所子ども会等を組織し、学習会やレクリエーションを企画し、避難所における子どもたちの心身の健康の保持と士気の維持に努める。	
	○	○	○ 避難所周辺の瓦礫撤去や立ち入り危険箇所の表示など、復旧活動に加わる。	
	○		○ 高齢者や体調を崩した避難者の依頼を受け、買い物をしたり、避難者の自宅の状況等の様子を見に行ったりする。	
		○ 市町等災害対策に取り組む公共施設で、災害復旧ボランティア活動に参加する。		
		○ 行政関係者から正確な情報を得て、壁新聞を作成したり、避難所新聞を作成したりして、情報提供を行う。		
		○ 避難所運営責任者の指示を受けて、救援物資の配給、支援ボランティアへの指示、小・中学生の学習の支援を行う。		
	○	○ 地震等大規模災害発生直後、延焼中の建造物に対する消火活動や、負傷者の搬出、手当などできる範囲で救援活動に加わる。		

学年が上がるにつれて、できる取組は広がり、主体性も増す